

さらなる研究の広がりを期待して

千葉市総合展覧会科学部門は本年度で59回を迎え、科学論文集も第56集を完成させることができました。この総合展は、千葉県科学作品展同様、半世紀を越える歴史と伝統を誇っています。この栄えある総合展で入賞された皆さんは、日頃の努力が報われ、喜びもひとしおのことと思います。

今回の科学論文では、身近な自然や生活の中から、疑問を見出し、粘り強く観察や実験を繰り返して結果を出し、自然のきまりを発見しているものが多く、研究への熱心な取組が伺えました。また、科学工夫作品では、日常生活を便利にする工夫、夢や希望が感じられるものが多く見られ、どれもアイデアに溢れたすばらしい作品でした。

さて、昨年のノーベル賞では、生理学・医学賞に東京工業大学の太田良典名誉教授が受賞されました。科学部門としてはこの3年間で6人の科学者がノーベル賞受賞の栄誉に輝き、日本の研究分野のレベルの高さを改めて感じました。

太田教授は28年前から「オートファジー」という酵母の研究に没頭されてきました。来る日も来る日も顕微鏡を覗き続けることによって、オートファジーがたんぱく質を分解する現象を光学顕微鏡で発見したそうです。その研究のきっかけは「人のやらないことをやろう」という思いでした。

今回の総合展でも着眼点としてすばらしい作品が多く見受けられました。「まだ誰も見つけていないことを見つけよう」「こんなものがあったら便利だろう」という思いがあってこそ研究は進みます。研究は決して簡単なものではありません。だからこそ、新しい発見をしたときに大きな喜びがあると思います。

みなさんも、今回取り組んだ研究や工夫作品を別の視点で見直すことによって、自分の研究をさらに広げられるようにしてほしいと思います。そして、自分の目標に向かって粘り強く取り組み、工夫したり追究したりする心をさらに深めていってください。次年度の作品展も大いに期待しています。

結びに、本作品集の編集に御協力いただいた皆様の御尽力に、心より感謝申し上げます。御挨拶とさせていただきます。

平成29年3月

千葉市教育委員会学校教育部

指導課長 福本 順